

日々の田高（海外派遣研修 ミネルバ大学学生との交流）

10月31日（金）の午後、海外派遣研修に参加した本校生徒の4人は、ミネルバ大学との学生交流会に参加しました。

ミネルバ大学は、学生の約8割が世界約100か国からの留学生が占める4年制総合大学です。学生たちは4年間で世界7か国の主要都市を巡り、現地企業、NPO、行政、研究機関等と協働した学習やインターンに取り組めます。今回は、世界は8か所目となる日本での拠点設立の開校セレモニーのために来日したとのことでした。

高校生4人の机に学生が2人入り、コミュニケーションはすべて英語です。国籍や民族が非常に多様な空間であり、母国語が英語である人も少なかったかもしれません。それでも英語を通して、お互いのルーツや文化の違いを超えて全員が共通のコミュニケーションを図っていたことが印象的でした。

生徒たちは交流に先んじて、学生たちへの質問や日本にまつわる3択クイズを用意していました。田高の生徒が考えた「日本に祝日は何日あるでしょう？（How many public holidays does Japan have?）」や「日本で嘘つきと言われる動物はどれか（Which animal in Japan is called a liar?）」等の問題も全体に問いかけられ、終始にぎやかな会となりました。

既存の大学では得られない経験をしてきた学生たちとの交流を通して、生徒自身のキャリア意識や世界を見るイノベーティブな視点にまた一つ、大きな変革が起こったのではないかと思います。海外派遣研修の最終発表の2月に向けて、これまでのプログラムで学んだことをまとめ、形にしていきます。

